

自分は弱い人間だけれども、
周囲に支えられて、こうしてここまで、
生きていくことができた。その周囲の人に
対して、最後に『ありがとう』の一言を、
言いたいと思うのです。

人間の“限りある命”は、単独であるわけでは
なく、いくつもの“限りある命”に支えられて
“限りある時間”を過ごしていきます。

それは、周囲にささえられて存在するという
意味において、“いのち連環体”という大きな
“わっか”の一部でもあります。

そういう“連環体”が、連なって“大いなる
いのちの連環体”をなしている、そう見る
ことが、出来ると思います。

「竹やぶって何だか、知ってますか？

竹は全部、地下茎でつながっているんです。

竹がある山は、ひと山全部ひとつの植物

なんです。人間の知的な営みも、実は、地下で
つながっているんです。みんなの頭の中にある
ことは、どこかで、あなたの頭に何らかの形で
取り込んだわけですね。